

SRHD、事業承継で多角化 物流から映像やスポーツまで 中国地方キラリ企業

2024/9/5 5:00 | 日本経済新聞 電子版

広島県福山市に本社を置くSRホールディングス（HD）は物流やアパレル、商事、機械製造、クリエイティブ事業など多様な事業会社を傘下に持つ。2013年以降、後継者不足に悩む企業からの事業承継などを通じて、多角化を急ピッチで進めてきた。環境変化に対応してリスクを分散、事業間で相乗効果を生み出すことも狙う。



SRホールディングスの荒木栄作社長

SRHDの祖業である物流会社、昭和陸運は荒木栄作社長の父が1954年に創業した。荒木氏が社長を継いだのは2009年。34歳の時だった。

物流業界では当時から人手不足や競争激化などによる成長の限界が指摘されていた。「物流事業だけを突き詰めることはリスクが高い」と考えた荒木社長は、新たな成長機会を求めて13年に異業種への参入を始めた。

この頃から既に事業承継の打診は舞い込み始めており、事業の多角化に向けて積極的に活用しようと考えた。跡継ぎの不在に悩む企業にとっては事業の存続が可能になり、SRHDは事業拡大の新たなチャンスを得ることになる。

第1弾として13年に映像制作会社、岡山第一ビデオ（岡山市）の全株式を取得した。荒木社長自身がこの分野に関心を持っていた。もともとは結婚式などで流す映像の編集を手がけており、現在は企業ブランディングのための映像制作やテレビ局向けの映像撮影などに範囲を広げている。

17年には持ち株会社のSRHDを設立した。23年には印刷関連業のグラフィック機材（岡山市）、スポーツ施設の運営などを手掛けるTeam39（東京・墨田）の全株式を取得した。現在はグループで8つの事業を手がける。

スピード感を重視するが、やみくもな多角化ではない。事業承継は収益や成長性だけではなく、地域にとって必要な会社であることなども考慮して判断する。そのうえで事業を多様にし、リスクを補完し合えるというのが荒木社長の考えだ。

新型コロナウイルス禍では小売りサービスなどの事業は苦戦したが、物流や不動産といった他の事業が屋台骨を支えた。傘下の企業間での人事異動によって社員に多様な価値観を持たせ、新たな経験を積ませる。

SRホールディングスの会社概要	
所在地	福山市
設立	2017年
売上高	約100億円（2023年度）
従業員数	360人
事業内容	物流、映像、機械、スポーツなど

異なる事業を束ねていることで、経営判断にあたっての情報収集でも有利になる。例えば機械製造やスポーツ関連でどんなニーズが広がっているかを事業会社経由で把握できれば、物流網をその分野へシフトして受注で先行することも可能だ。

グループ化した企業の経営は原則、信頼できる人材を経営者として外部登用し、全面的に権限を委譲する。荒木社長は傘下企業の経営にあまり口を出さない。最初の2～3年は業績が悪くなくても想定内とどっしり構え、長期的視野で対応する。

任せて、信じて、成長を待つのが荒木社長のやり方だ。「今後はアジアなどでの事業展開も挑戦していく」と意気込む。

（宮沢徹）

地域ニュース

全国各地の最新記事やおすすめコラムはこちら